



Chu-Shi ACTIVITY REPORT

中四がんプロ活動レポート

Vol.55

Sep. 2019

愛媛大学 Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院チーム
TEL:089-960-5868

岡山大学 Okayama University

がん専門医養成コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL:086-235-7986
がん専門職(がん専門・指導薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師)養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当
TEL:086-251-7923
高度実践看護師(がん看護専門看護師)コース-医学物理コース
●医歯薬学総合研究科学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL:086-235-7984

香川大学 Kagawa University

がんプロフェッショナル養成コース
●医学部学務課大学院入学試験係
TEL:087-891-2075

川崎医科大学 Kawasaki Medical School

がん専門医療人養成コース
●事務部教務課
TEL:086-464-1012

高知県立大学 University of Kochi

APNコース
●教務支援部教育研究戦略課
TEL:088-847-8815

高知大学 Kochi University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院係
TEL:088-880-2799

徳島大学 Tokushima University

がん薬物療法専門医養成コース-臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科学コース
臨床腫瘍栄養学コース(博士前期課程・博士後期課程)
●蔵本事務部学務課第一教務係
TEL:088-633-9649
臨床腫瘍薬剤師養成コース
●蔵本事務部薬学部事務室学務係
TEL:088-633-7247
高度実践がん看護学コース-医学物理学コース
●蔵本事務部学務課第二教務係
TEL:088-633-9009

徳島文理大学 Tokushima Bunri University

臨床腫瘍薬剤師養成コース
●香川キャンパス教育・研究支援グループ(がんプロ担当)
TEL:087-899-7100

広島大学 Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●産地区運営支援部学生支援グループ
TEL:082-257-1538

松山大学 Matsuyama University

がん専門薬剤師養成コース
●薬学部事務室
TEL:089-926-7193

山口大学 Yamaguchi University

外科系腫瘍専門医コース
内科系腫瘍専門医コース
放射線腫瘍専門医コース
がん看護専門看護師養成コース
●医学部学務課大学院教務係がんプロ事務室
TEL:0836-22-2055

<http://www.chushiganpro.csv.okayama-u.ac.jp/>

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.55

□ 編集兼発行者

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
TEL:086-235-7812/FAX:086-235-7552
ganpro@adm.okayama-u.ac.jp

□ 印刷所

有限会社 ファーストプラン



Mid-West Japan
Cancer Professional Education Consortium
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

研修報告

研修期間：2018年6月27日～30日

研修先：SIOG Geriatric oncology advanced course, Treviso, Italy

山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 吉野 茂文
愛媛大学医学部附属病院 腫瘍センター 特任講師 朝井 洋晶

我々はがんプロ海外FD研修として、国際老年腫瘍学会(The international Society of Geriatric Oncology;以下SIOGと略す)主催で2018年6月27日～30日にイタリアのトレヴィーゾで開催された老年腫瘍上級コースに参加したので、その概要を報告する。

SIOGは老年腫瘍学領域における医療専門家を養成することを目的に2000年に設立され、2012年にはスイスで非営利団体として登録された学会で、腫瘍内科医、老年内科医だけでなく、あらゆる領域の医療従事者で構成され、世界中で40か国以上、1000名を超える会員がいる。

本上級コースの目的は、「それぞれの医療施設において腫瘍治療医、老年内科医を中心とした多職種からなる医療チームを形成できる医療者を育成する」ことであり、今回は、昨年につづき日本から我々2人が参加した。その他にも米国、欧州をはじめとする16か国から合計40名の臨床医(腫瘍内科医、老年内科医、外科医、放射線治療医)が集まり、3.5日間の日程で、サクロ・クオーレ・カトリック大学内において本研修が行われた。



写真1: Welcome board

日時	内容	6月29日(金)
6月27日(水)	14:00～14:30 参加者自己紹介、研修の目的などの確認 14:30～16:00 高齢者機能評価の基本1 ① 高齢がん患者が診療において老年内科医が腫瘍内科医に確認し行うべきこと ② 高齢がん患者が診療において腫瘍内科医が老年内科医に確認し行うべきことについて学ぶ 16:30～18:00 高齢者機能評価の基本2 ① 高齢直腸がん患者の例を通して、多職種連携について学ぶ ② 高齢がん患者に対する多職種からなるチーム医療の現状に、国際老年腫瘍学会の活動と各国の状況について学ぶ	8:00～8:30 高齢がん患者の支持療法について 支持療法の要点についての講義 8:30～9:00 Prehabilitation(身体機能低下予防のための医学的介入)とrehabilitation(機能回復のための介入)に関する講義 9:00～9:30 高齢がん患者におけるがん性疼痛、非がん性疼痛に関する講義 9:30～10:00 高齢がん患者における抗がん剤治療の毒性予測と毒性軽減に関する研究についての講義 10:30～12:30 フレイル高齢乳がん患者のグループディスカッション 症例1: 限局期乳がん、症例2: 進行期乳がん +診療のポイントについて総括 13:30～15:30 フレイル高齢肺がん患者のグループディスカッション 症例1: 限局期非小細胞肺がん 症例2: 進行期非小細胞肺がん +診療のポイントについて総括 16:00～17:00 高齢者が医療に関する臨床研究について ① 臨床試験解釈について ② 臨床試験の計画と実施についての講義 17:00～18:00 参加者が経験した高齢がん患者の症例提示とディスカッション①
6月28日(木)	腫瘍内科医向けの老年医学の基礎 ① 加齢、脆弱性の生物学について学ぶ ② 高齢者機能評価のスクリーニング方法、介入について学ぶ ③ 高齢者の多剤併用 ④ 老年症候群について学ぶ 13:00～15:00 フレイル高齢前立腺がん患者のグループディスカッション 症例1: 限局期前立腺がん、症例2: 進行期前立腺がん +その総括 15:30～17:30 フレイル高齢造血器腫瘍患者のグループディスカッション 症例1: 悪性リンパ腫(びまん性大細胞型B細胞リンパ腫) 症例2: 多発性骨髄腫 +診療のポイントについて総括 17:30～17:50 高齢がん患者の外科的治療(手術)についての講義 17:50～18:10 高齢がん患者の麻酔、緩和医療についての講義 18:10～18:30 高齢がん患者の放射線治療についての講義	6月30日(土)
		8:00～10:00 フレイル高齢結腸がん患者のグループディスカッション 症例1: 進行期結腸がん、症例2: 限局期結腸がん +診療のポイントについて総括 10:30～12:30 参加者が経験した高齢がん患者の症例提示とディスカッション② 12:30～13:00 コースの評価と総括

表1: SIOG研修プログラム(日本語訳)

1日目は各参加者の自己紹介ののちに、高齢者機能評価を中心に、高齢がん患者の診療において、「老年内科医が腫瘍治療医に確認するべきこと」、「腫瘍治療医が老年内科医に確認するべきこと」の概要をそれぞれ学んだ。前者には、①腫瘍による症状や臓器障害の有無、②疾患の予後、③治療の選択肢(標準治療、標準治療ができない場合の代替治療、治癒、延命、症状緩和などの治療目標)、④治療の毒性/臓器への影響、⑤治療の緊急性などが含まれ、後者には、a)身体機能、b)併存症、c)認知機能、d)うつ傾向、e)併用薬剤状況の確認、f)栄養状態、g)老年症候群の有無、h)転倒リスクなどがあげられる。特にSIOGでは、70歳以上の高齢がん患者においては、G8^{*1}を用いた高齢者機能のスクリーニング評価を推奨しており、15点以上をFit患者として若年者と同じ標準治療を検討し、14点以下の場合は、総合的高齢者機能評価(Full CGA)を追加し、Frail患者と判定されれば治療への耐容性が低下していると判断し、老年内科医らと相談しながら治療強度の減量や緩和ケアなども考慮するといった戦略を学んだ。

2日目の午前中は腫瘍治療医と老年内科医の2グループにそれぞれわかれ、お互いの領域の基礎知識に関するレクチャーが行われた。我々2人とも高齢者機能評価、老年症候群、Polypharmacyについて学んだ。

昼食は大学内でケータリングによるイタリア料理がふるまわれ、ワインなどのお酒も交えながら、Meet the Expertとして、「高齢がん患者のあるべき臨床試験について」、「どのように多職種チームを形成すべきか」などテーブルごとにテーマ、講師が配置され、参加者は好きなテーブルにつき活発なディスカッションが行われた。

午後からは高齢前立腺がん、造血器腫瘍患者の症例提示が行われたのち、腫瘍内科、老年内科、外科、放射線治療が均等に配置された4つのグループで、提示された患者の高齢者機能評価を基に最適な治療戦略や介入方法についてグループディスカッションが行われた(写真2)。さらには、高齢がん患者の外科治療、麻酔、緩和医療、放射線治療についてのレクチャーを受けた。

3日目の午前中は、がん性疼痛、抗がん剤治療に対する支持療法、リハビリテーション、Prehabilitation^{*2}(身体機能低下を予防するための医学的介入)について学び、高齢乳がん患者、高齢肺がん患者についてグループディスカッションを行い、高齢がん患者の臨床試験について学んだ。



写真2: グループディスカッションの様子

最終日は高齢者大腸がん患者のグループディスカッションののち、今回の参加者が経験した高齢がん患者について症例プレゼンテーションとディスカッションを行った(写真3)。

本研修会では、老年腫瘍学に関する生物学的基礎から、実臨床への導入方法(機能評価に基づいた医療介入、多職種チーム医療の重要性、Frailtyに基づく治療強度減量調整)、さらには老年腫瘍学研究についても学ぶことができた。

さまざまな国、地域、専門分野(腫瘍関連の専門医、老年内科医)の参加者が集まるため、その国々の高齢者医療体制などの情報も得られ、とても有意義な研修であった。しかし、本コース内では、G8などの高齢者機能評価そのものの具体的な実習は含まれず、症例を用いたグループディスカッションでも、高齢者機能評価を行っていることが前提で、その情報をもとに、その症例の治療戦略についてCancer boardのように検討するものであった。今後本コースに参加される方には、高齢者機能評価に関する予習をして参加することをお勧めする。



写真3: 吉野の症例プレゼンテーション

さまざまな国、地域、専門分野(腫瘍関連の専門医、老年内科医)の参加者が集まるため、その国々の高齢者医療体制などの情報も得られ、とても有意義な研修であった。しかし、本コース内では、G8などの高齢者機能評価そのものの具体的な実習は含まれず、症例を用いたグループディスカッションでも、高齢者機能評価を行っていることが前提で、その情報をもとに、その症例の治療戦略についてCancer boardのように検討するものであった。今後本コースに参加される方には、高齢者機能評価に関する予習をして参加することをお勧めする。



写真4: SIOG研修会に参加した講師・受講者



写真5: 左から朝井、吉野、Lodovico Balducci先生、Silvio Monfardini先生、Etienne Brain先生、Martine Extemann先生

*1G8:①食事摂取、②体重減少、③身体活動度、④認知機能、⑤BMI、⑥Polypharmacy、⑦健康度の自己評価、⑧年齢の8項目を点数化した高齢者機能スクリーニング方法(Carine Bellera, et al. Ann Oncol 2012;23:2066-72)

*2Prehabilitation: リハビリテーションは低下した身体機能を回復させる医療介入だが、Prehabilitationは身体機能が低下する前から予防的に行う身体機能維持を目的とした医療介入として本研修会で紹介された。

研修報告

研修期間：2018年11月16日～18日
 研修先：18th Annual Conference of SIOG, Amsterdam, Netherlands

山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 吉野 茂文

International Society of Geriatric Oncology(SIOG) Advanced Courseの修了要件としてSIOGのAnnual Conferenceに参加し、Phase1の研修(2018年6月27日～30日、イタリア、トレヴィーソ)で学んだことを元に将来計画の立案をポスター発表する義務があり、またConference中に実施される筆記試験に合格する必要がある。このPhase2の研修を終えることにより初めてAdvanced Courseの修了証が授与される。今回アムステルダムで開催されたPhase2の研修に参加してきたので報告する。

SIOGの第18回Annual Conferenceは2018年11月16～18日にアムステルダムのRAI Convention Centerで開催され、41か国から604名の参加があった。私は11月16日と17日にあったポスターセッションで発表し、Phase1の研修修了者やFacultyの先生方とディスカッションを行った。

ポスター発表の内容としてはPhase1の研修で学んだことを基礎に、老年腫瘍学に関して今後どのような教育をしていくのか、あるいはどのように臨床に生かしていくのかなどの計画を盛り込むことが求められており、これらの内容につき発表した。まず中四がんプロにおけるeラーニングシステムにつき紹介し、このeラーニングを活用して今後コンソーシアム内で、Phase1の研修で学んだ老年腫瘍学に関する基礎と臨床を教育していく旨を発表した。

また臨床面においては、山口大学医学部附属病院の外来化学療法室で治療を受けた75歳以上の高齢がん患者におけるGeriatric Assessmentの結果につき報告した。Geriatric Assessmentとしては簡便なスクリーニングツールであるG8を用いて評価し、75歳以上では58人中32人(55%)がUnfitと判定されたことを報告した。

11月18日の最終日にPhase1の研修参加者と共にmultiple choice式の筆記試験を受けた。老年腫瘍学と老年病学に関する約20問(30分)の設問であったが、長文臨床問題もあり結構難問であった。どうなることかと気を揉んだが、なんとか合格しSIOG Advanced Courseの修了証を授与された。



筆記試験の試験風景



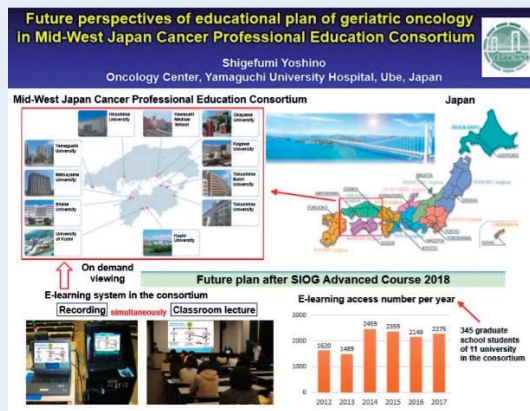
試験問題の一部



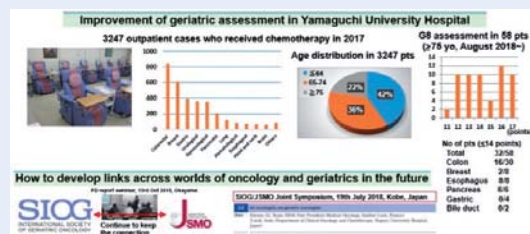
第18回SIOG Annual Conference会場
(アムステルダムのRAI Convention Center)



SIOG DirectorのEtienne Brain先生と
ポスター会場



ポスター発表で中四がんプロコンソーシアムの紹介と
eラーニングシステムの紹介をした



ポスター発表で山口大学外来化学療法における
高齢癌患者の現状につき報告した



筆記試験終了後の集合写真



SIOG Advanced Courseの修了証

Phase 1~2研修を通じて

1. 研修先で学んだこと

- ・世界の高齢者腫瘍学の情勢(日本、アジアは取り組みが遅れている。)
- ・高齢者がん治療におけるGeriatrician(老年腫瘍医)の役割について(世界的には腫瘍内科医や外科医とGeriatricianが連携を取りながらがん治療を進めている。)
- ・高齢者の身体機能、精神機能の評価方法(見た目だけでは判断できない。)
- ・高齢者がん治療における、身体・精神機能評価の重要性
- ・高齢者がん治療における、身体・精神機能を考慮した治療戦略の立て方
- ・高齢者化学療法における副作用予測と投与量の決定
- ・高齢者がん治療におけるPrehabilitation(治療前のメディカルサポート)とRehabilitationの重要性
- ・高齢者がん治療における臨床試験の計画方法

2. それをどのように教育に生かすか

中四がんプロコンソーシアムにおいて、高齢者がん治療の重要性(若年者治療との違い)を講義する。そのためのeラーニングコンテンツを作成していく。

3. それをどのように臨床に生かすか

山口大学医学部附属病院においてがん治療を受ける高齢者の身体・精神機能の評価を行っていき、カンサーボードで症例検討を行う。

4. それを実行するための方策

- ・高齢者がん治療の重要性の講義をし、eラーニングコンテンツを作成する。
- ・山口大学医学部附属病院においてがん治療を受ける高齢者の身体・精神機能の評価を開始し、高齢者の身体・精神機能の評価体制を整えていく。

平成30年度 高知県立大学がん高度実践看護師（APN）コース

～Cancer Trajectory をたどる人のニーズに応える高度実践を創造する看護師養成～ 高齢がん患者の治療とケア

目的：ライフステージやがんの特性を考慮して、がんと共に生きる人とその家族の健康と生活に関わる
ニーズに応えられる専門性の高い実践ができる看護師の養成

履修期間：平成30年8/25(土)、26(日)、9/15(土)、16(日)、平成31年2/2(土)、3(日)、16(土)、17(日)

開催場所：高知県立大学池キャンパス 看護福祉棟2階 F 208

履修科目：4単位60時間 「高齢がん看護基盤論」「高齢がん診断治療学」「高齢がん看護実践論」「高齢がん看護展開論」

対象者：専門看護師、大学院修士課程修了者、がん看護に関連する認定看護師

修了要件：コースで定める60時間のうち、各科目8割以上履修すること

受講者数：29名 うち18名が修了

高知県立大学では、平成29年度からがん高度実践看護師(APN)コースを開講し、平成30年度は「高齢がん患者の治療とケア」をテーマに、高齢がんの診断や治療に関する知識、高齢がん看護に関する専門的な知識と技術を学び、がんをもつ高齢者のニーズに対応することのできる、専門性の高い看護実践力を修得することを目指すコースを開講しました。

【終了報告】

高知県での開催の8日間のコースでしたが、高知県以外の愛媛県、香川県、徳島県、岡山県、広島県、山口県、鳥取県からも、がん看護専門看護師、がん看護に関連する認定看護師、認知症看護認定看護師、慢性心不全看護認定看護師、がんブロ学生に参加いただきました。受講生は高齢がんの診断や治療に関する知識、高齢がん看護に関する専門的な知識と技術の学びをもとに、高齢がん患者の特徴を有する3つの事例を用いた事例展開を行い、がんを持つ高齢者のニーズに対応することのできる専門性の高い看護実践力を修得しました。また、多領域の専門・認定看護師、専門看護師を目指す学生がディスカッションをすることで、自分にはなかった視点や考え方を知ることができ、互いに刺激を受け視野をより一層広げる機会となりました。

受講生からは、「高齢者の特徴やアセスメントの視点を学ぶことができ、すぐに実践に活かすことができ」「高齢者機能評価などの評価ツールを知ることができた」「グループワークでは、様々な領域の人と専門的知識や見解を話し合うことができ、対象者を多角的に捉える視点が深まった」などの声が聞かれ、今後の専門性の高い看護実践につながる、受講生のニーズに応えることのできた有意義なコースとなりました。

【全体のサマリー】

「高齢がん看護基盤論」

竹崎久美子先生(高知県立大学看護学部 教授)からは、老年学と老年看護を理解する上で必要な諸理論および、それら高齢がん看護への活用について説明され、高齢者への理解を深め、高齢がん患者への看護実践をするための基盤となる知識を再確認することができました。

村上あきつ先生(香川大学医学部附属病院腫瘍内科 緩和ケアチーム専従医師)からは、高齢者への緩和医療とチーム医療について説明されました。高齢がん患者への緩和ケアを円滑に行うためには高齢者の多病と多様性について理解し、病態や生活

機能、生活環境を把握する包括的な視点を持つ必要があることが説明されました。そして、緩和ケアでは学際的チームによるチーム医療が重要であることが述べられ、職種間の連携を強化し互いの専門性を活かしたケアを円滑に行っていくために、看護師が担う役割についても改めて考えることができました。

百瀬由美子先生(愛知県立大学副学長 看護学部教授)からは、高齢者への看護にまつわる倫理的課題とアプローチの実際と、継続した高齢者看護における課題と戦略について説明されました。高齢がん患者の治療や療養の場に関する意思決定の過程では、認知症や加齢による機能低下、医療者の誤解や偏見などにより、本人の意思が十分に尊重されないという特徴があることが述べられました。講義を通して、自分自身の倫理的感受性を高め潜在的倫理的問題を速やかに捉える力を養う必要性や、倫理的問題を解決するためには適切なツールを用いて、患者にとっての最善をチームで検討することの大切さを改めて認識することができました。

渡邊美保先生(高知県立大学看護学部 講師)からは、高齢者の健康な生活、心理・社会的機能評価とアセスメントについて、ま



竹崎 久美子 先生



村上 あきつ 先生



百瀬 由美子 先生



渡邊 美保 先生



佐藤 博俊 先生



永野 啓輔 先生



主催者：藤田 佐和 先生

た複雑な健康問題を含む高齢者への包括的アセスメントと看護援助について説明されました。高齢者の健康な生活では、個々の健康レベルに応じた看護援助を行い、その人らしい生活を支援していくことの重要性が述べられました。そして、高齢者の生活背景やこれまでの生き方、価値観を尊重した支援を考えていく重要性を改めて認識することができました。

「高齢がん診断治療学」

佐藤博俊先生(はりまやばし診療所 院長)からは、高齢者の薬物療法について説明されました。脳の解剖生理や神経伝達物質の作用機序、薬剤の作用機序、せん妄についての基本的な診断や治療、睡眠との関連性等、医学的知識を身につけることは、現在起こっている症状の要因を適切にアセスメントすることにつながると述べられ、高度な看護実践を行う上で、医学的知識は不可欠であることを再認識しました。

永野啓輔先生(ながの内科クリニック 院長)からは、認知症における診断について説明されました。認知症のアセスメントでは、行動変化や認知的変化だけでなく、大脳の器質的変化を画像からも読み取ることが必要なことが述べられました。また、せん妄と認知症の判断基準や認知症のタイプの特徴について知識を持っておくことで、患者の変化に気づき、早期から多職種と連携した適切な対応につなげていけることが説明されました。さらに、周辺症状は身体状態の悪化や薬物の影響、不適切な環境や関わりなどにより出現しやすくなるということが説明され、看護師は基礎的な知識に加え、患者の身体面・精神面・社会面について、苦痛やストレスの要因を適切にアセスメントする能力を身につける必要があることを改めて認識することができました。

島田安博先生(高知医療センター 病院長)からは、高齢がん患者の治療の現状と課題について説明されました。高齢者は加齢による生理機能の低下、複数の併存疾患を持つことや、栄養状態、認知機能の低下、社会的背景の問題など複数の問題を抱えており、個々によりその程度も異なるため、治療の際には多職種チームによる多面的な評価と介入が重要であることが説明されました。また、高齢がん患者における高齢者機能評価は、これまで見逃されていた問題の発見や治療方針の決定、有害事象や予後予測にも有効であることが述べられ、多職種チームによる高齢



島田 安博 先生



吉岡 佐知子 先生



森下 幸子 先生



田代 真理 先生



今井 芳枝 先生



森本 悦子 先生

者の機能評価を行う際の看護師の役割について、改めて考える機会となりました。

吉岡佐知子先生(松江看護キャリアセンター 老人看護専門看護師)からは、高齢者に対する心理社会的支援について説明がされ、高齢者を理解するためには、身体面に加え、精神面・社会面・スピリチュアルな面についてもアセスメントができるよう、アセスメント能力を高めることが重要であると述べられました。そして、看護専門職者が認知症やせん妄に関する知識を持つことで患者の言動の変化に気づくことができ、症状を誘発・悪化させる要因を丁寧にアセスメントし、具体的な介入につなげることができていることを理解できました。

「高齢がん看護実践論」

藤田佐和先生(高知県立大学看護学部 教授)からは、高齢がん患者の看護における現状と課題について説明され、これまでに学修した高齢者の特徴や高齢者を理解するための諸理論などを活用し、がん高度実践看護師として現象を根拠に基づいてアセスメントする力や、協働する多職種に論理的に説明できる力を身につけていく必要性について述べられました。

森下幸子先生(高知県立大学健康長寿センター 特任准教授)からは、高齢者とその家族の特徴や、高齢がん患者への看護支援について事例を交えて具体的に説明されました。また、高齢がん患者の理解やアセスメントに活用できる理論やモデルについても述べられ、高齢がん患者を支援する視点として、家族の全体性を捉え家族が本来持っている対処能力を發揮できるよう支援することや、家族が主体的に問題に取り組めるよう支援することの重要性を理解することができました。

竹崎久美子先生からは、高齢者への社会的支援および最新の施策の実際と課題について説明され、高齢がん患者が利用できる社会制度やサービス、高齢がん患者の療養の場の多様性について述べられました。高齢がん患者が望む場所で療養生活を送るためには、利用できる制度やサービスについての知識や、療養の場の特徴を知っておくことが必要であり、それぞれの場に必要な看護や看護師の役割を改めて考える機会となりました。

田代真理先生(JCHO東京新宿メディカルセンター がん看護専門看護師)からは、終末期の高齢がん患者への看護と課題について説明されました。加齢は個性が大きく、患者や家族の求める終末期の在り方には答えはないため、多面的な視点でのアセスメントを行いながら、個々の状況に合わせた多様なターミナルケアを提供していく必要性が述べられました。そして、終末期ケアでは予後予測をしながらACPを進めると同時に、日常生活上のケアを丁寧に行っていくことが重要であることを改めて認識することができました。

今井芳枝先生(徳島大学大学院保健科学教育部 准教授)からは、高齢がん患者の全人的アセスメントと看護援助について身体的側面から説明され、身体的側面のアセスメントの視点として、運動・呼吸・心・腎・認知機能が重要であり、これらが老化や治療によってどう変化し、その人の生活にどう影響しているかをアセスメントすることが看護としてとても重要であることが説明されました。そして、高齢がん患者は老年症候群を併せもつことが多いため、老年症候群のアセスメントとケアに対する知識や

技術を持ち実践していくことが、安全な治療の提供につながることを理解することができました。

森本悦子先生(高知県立大学看護学部 教授)からは、高齢がん患者の全人的アセスメントと看護援助について、心理・社会的側面から説明され、高齢がん患者の心理・社会的アセスメントでは、がん患者の心理社会的アセスメントの基本に加え、高齢者の特徴の理解、そして高齢がん患者のその人らしい健康生活とは何かという視点を持つことが重要であることを学ぶことができました。

「高齢がん看護展開論」

田代真理先生からは、高齢がん患者の療養生活を支える看護実践として、在宅緩和について説明されました。在宅での療養生活を支援していく上では、今後患者の身体機能や生活がどうなっていくのかを予測しながら、少しでも患者・家族が望む生活が続けられるよう、症状マネジメントや思いに寄り添うケアを続けていく重要性が述べられました。そして、専門的緩和ケアを担う訪問看護師には、在宅緩和ケアに必要な医療、制度、社会資源の知識に加え、患者の病状や家族の介護力などから必要なサービスを判断・調整する能力が求められることを学ぶことができました。

門田麻里先生(高知県立大学看護学部 特任助教)からは、高齢がん患者の療養生活を支える看護実践として、外来看護、移行支援について説明され、高齢がん患者が治療・療養のどの場においても、切れ目のないケアを提供していくためには、多職種連携と看看連携が重要であることを再認識することができました。

庄司麻美先生(高知県立大学看護学部 助教)からは、高齢がん患者と家族の意思決定支援について説明されました。高齢がん患者の意思決定支援における特徴や課題、ACPIについて述べられた後、事例を用いて具体的に意思決定支援のプロセスを学ぶことができ、高齢がん患者の意思決定支援に必要な視点や配慮すべきことについて理解することができました。

高齢がん看護展開論では、高齢がん患者の特徴を含む3つの事例について個人ワークとグループワークを行い、これまで修得した知識や技術を統合して患者の全体像、看護問題と看護目標、看護援助について話し合いました。グループメンバーは専門分野の異なる専門・認定看護師、大学院生4～5名で構成し、専門性を活かした多様な視点で話し合いができました。また1事例

を2グループが担当し、互いに検討した内容を発表・共有することにより、アセスメントや看護援助の多様性を理解することができました。さらに、これまで学んだ知識を活用して事例展開を行ったことにより、講義内容の理解を深めたりアセスメントの視野を広げることができ、同時にそれぞれの立場で今後の実践にどう活用していくかを考える機会にもなりました。

【受講生アンケート結果】

受講生29名のうち、25名から回答をいただいた(回答率86.2%)アンケートの結果、本コースの内容について「大変満足した」が68%、「まあまあ満足した」が32%でした。また、「コース内容が専門性の高い看護実践力の修得につながりましたか」という問いに対し、「十分つながった」44%、「ある程度つながった」が56%、「今回のコースの内容は今後のがん患者さんへの専門性の高い看護実践に活用できますか」という問いに対し、「大変活用できる」が76%、「まあまあ活用できる」が24%であり、受講者のニーズに応えることのできたコースであったと考えられました。また、専門性の高い看護実践力の修得につながった具体的な内容については、「高齢者の特徴や高齢者機能評価などのツールを学び、患者さんや家族の生活力を判断する指標ができた」「高齢がん患者を多角的にアセスメントする重要性とそのための視点が理解できた」「多領域で話すことで、一人では見えてなかった視点がでてくる体験ができ、専門性の異なる者同士で話し合うことの有用性を体感することができた」などが挙げられていました。さらに、今後のがん患者さんへの専門性の高い看護実践に活用できると思う具体的な内容については、「高齢者の特徴やアセスメントの視点」「高齢者機能評価などのツール」「高齢者を多面的に評価することの重要性とその視点」「高齢者の特徴から、治療による身体や生活への影響を予測的に考えられるようになったこと」「高齢がん患者と家族の捉え方」「高齢がん患者を理解するための理論や、特徴、評価ツールなどたくさん学ぶことができたが、今後はさらに理解を深め活用する力を身につけることで、研修が実りあるものになると思う」「学んだ知識を自分自身の思考過程や看護実践に活かすとともに、スタッフにも伝えていくことが課題である」などが挙げられていました。

これらの結果から、受講生はコースで学んだ知識や内容を今後の高齢がん看護実践に活かすとともに、今後さらなる専門性の高い看護実践を行っていくための自己の課題も見出すことができ、受講生にとって有意義なコースとなったと考えられました。

2019年度は「AYA世代がん患者のケアとケア」のコースを開講予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



グループワークの様子

発表の様子



修了式

活動報告

愛媛 愛媛大学医学部腫瘍センター公開講座

日時:平成31年1月7日(月) 14:30~16:00

場所:愛媛大学医学部附属病院 地域医療支援センター1階 講義室

参加者:49名

「がんにならない、がんを再発しない生活習慣」 東京慈恵会医科大学 分子疫学研究部 部長・教授 浦島 充佳 氏

岡山 第39回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成31年1月8日(火) 18:00~19:30

場所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室

参加者:6名

「陽子線スペクトルと生物学的等価線量の関係」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

山口 第7回 がん治療スキルアップセミナー 第19回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会

日時:平成31年1月9日(水) 17:30~18:30

場所:山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階 多目的室1

参加者:33名

事例検討:「多職種協働で意思決定支援し穏やかな在宅看取りが実現できた盲腸がん事例」

山口大学医学部附属病院 看護部 兼安 博史 先生
ハビナス・エル訪問看護ステーション 野本 喜代美 先生

徳島 第11回 徳島 患者-医師間のコミュニケーションの質の向上を目的としたコミュニケーション技術研修会

日時:平成31年1月12日(土) 10:00~18:00

平成31年1月13日(日) 9:00~15:00

場所:徳島大学総合研究棟2階 スキルス・ラボ

参加者:7名

内容:難治がん、再発、抗がん治療の中止など悪い知らせを患者(小児では親)に伝えるロール・プレイ

岡山 第40回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成31年1月17日(木) 16:30~18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術25(画像誘導放射線治療)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術26(陽子線治療)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

広島 広島大学病院 がん医療従事者研修会

テーマ:肉腫について勉強する②軟部肉腫

日時:平成31年1月18日(金) 18:30~

場所:広島大学病院 臨床管理棟3階 大会議室

参加者:30名

講演1:「軟部肉腫:疫学、分類、病理について」

神戸大学大学院医学研究科・医学部地域連携病理学 特命教授/兵庫県立がんセンター病理診断科 部長 廣瀬 隆則 先生

講演2:「軟部肉腫の化学療法」

広島大学病院 がん化学療法科 助教 妹尾 直 先生

川崎 インテンシブ生涯教育コース 川崎医科大学附属病院がんセンター 第17回 Oncology Seminar合同講演会

日 時:平成31年1月19日(土) 13:30～15:00

場 所:川崎医科大学 校舎棟7階 M-702講義室

参加者:72名

特別講演:「く暮らしの中での看取り」準備講座～患者・家族が安心できる療養を支えるため～
聖ヨハネ会桜町病院 ホスピス科・在宅診療部長/広島大学医学部 客員准教授 大井 裕子 先生

岡山 第41回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成31年1月24日(木) 16:30～18:00

場 所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術27(総合演習)」岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

徳島 がん薬物療法専門医養成コースセミナー

日 時:平成31年1月25日(金) 19:00～20:00

場 所:徳島大学病院 日垂ホールWhite 小ホール

参加者:13名

「リンチ症候群と子宮がん」札幌医科大学医学部 産婦人科学講座 教授 齋藤 豪 先生

徳島 がん看護インテンシブコースⅡ がん高度実践看護師WG講演会 in Tokushima

テーマ:がん治療・療養過程にある小児・AYA世代に対する高度な看護実践

日 時:平成31年1月26日(土) 13:00～16:00

場 所:徳島大学構内 藤井節郎記念ホール1F

参加者:34名

「小児・AYA世代のがん医療の現状と対策」
徳島大学大学院医歯薬学研究部 小児科学分野 准教授 渡辺 浩良 先生

「がん治療・療養過程にある小児・AYA世代の子どもに対するチャイルド・ライフ・スペシャリストの役割と支援の必要性」
東邦大学医療センター大森病院 チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS) 原田 香奈 先生

「がんの治療を受ける小児・AYA世代の体験と看護の役割」
京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 准教授 小児看護専門看護師 松岡 真里 先生

高知 第14回 がんプロ国際セミナー

テーマ:地域医療について

日 時:平成31年1月30日(水) 18:30～

場 所:高知大学医学部 低侵襲手術教育・トレーニングセンター

参加者:26名

内 容:台湾大学学生と高知大学学生が、お互いの大学と実習についてプレゼンテーションをした後、台湾と高知の地域医療・在宅医療について英語でディスカッションを行った。

広島 米国の緩和医療における多職種連携

日 時:平成31年1月30日(水) 18:20～20:00

場 所:広島大学保健学科 研究棟203号室

参加者:19名

講演1:「クリニカルソーシャルワーカーの立場から」 Dana Hammond 先生, LCSW, Parker Adventist Hospital

講演2:「がん看護専門看護師の立場から」 朝倉 由紀 先生, CNS, OCN

広島 第45回 広島大学病院放射線治療講演会 第1回 広島粒子線治療研究会

日 時:平成31年2月1日(金) 18:00～

場 所:広島大学病院 外来診療棟地下1階 放射線治療センター カンファレンスルーム (HIPRACとTV中継)

参加者:30名

「Current status of proton therapy」 Ritsuko Komaki, M. D. (Baylor College of Medicine)

広島 第7回 広島市薬剤師南区勉強会

日 時:平成31年2月1日(金) 19:00～20:30

場 所:広島大学病院 たんぽぽ保育園2階 カンファレンスルーム1・2

参加者:66名

講演1:「保険薬局における乳がん患者への支援」 広島南薬局 大谷 純一 先生

講演2:「乳がんの診断と治療」 広島大学病院 乳腺外科 診療准教授 角舎 学行 先生

徳島 臨床腫瘍外科学コースセミナー

日 時:平成31年2月4日(月) 15:00～16:00

場 所:徳島大学医学部 臨床A棟5階 胸部・内分泌・腫瘍外科学医局

参加者:21名

「食道癌に対する低侵襲手術」 国立がん研究センター中央病院 食道外科長 大幸 宏幸 先生

山口 第8回 がん治療スキルアップセミナー 第20回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会

日 時:平成31年2月7日(木) 17:30～18:30

場 所:山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階 多目的室1

参加者:45名

緩和ミニレクチャー:「親ががんになったとき子どものためにできる在宅でのケア」 訪問看護ステーションあん 古賀 博美 先生

事例検討:「『運動会に行くからね』患者・家族の希望に沿った外出への支援ができた絨毛がん事例」

山口大学医学部附属病院 産科婦人科 梶邑 匠彌 先生

山口大学医学部附属病院 看護部 永見 友希 先生

高知 第7回インテンシブコース(在宅がん医療・緩和医療)在宅がん医療講演会

テーマ:医療と介護の連携

日 時:平成31年2月15日(金) 19:00～20:30

場 所:ちより街テラス3階 ちよテラホール

参加者:55名

「がん患者を支える地域包括ケアシステム」 いの町立国民健康保険仁淀病院 院長 松浦 喜美夫 氏

「在宅ケアとのシームレスな連携を目指して」 大井田病院 地域包括ケア病棟 主任看護師 井上 綾子 氏

「医療・介護連携による在宅支援の取り組み」 アルコ デイトレセンター愛宕山 木村 徹 氏

「安芸市の医療介護連携プロジェクトについて」 安芸市市民課地域包括支援センター 所長 岡田 琴代 氏

香川 第21回 緩和医療に関する集中セミナー in 香川

日 時:平成31年2月16日(土) 8:45～12:45

場 所:高松国際ホテル 瀬戸の間

参加者:92名

「**金沢がん哲学外来の活動**」 金沢大学附属病院 緩和ケアセンター 山田 圭輔
 「**がん患者で認められる睡眠障害とその治療について**」 香川大学医学部附属病院 精神科神経科 助教 石川 一朗
 「**がん患者の心理と臨床心理士の役割**」 香川大学医学部附属病院 がんセンター 臨床心理士 柘植 薫
 「**在宅緩和ケアの実際**」 生協みき診療所 所長 田中 眞治 / 訪問看護ステーション共生 所長 橋本 志衣

広島 広島大学病院在宅緩和ケア事業研修会

テーマ:病院と地域のつながりを深めよう

日 時:平成31年2月16日(土) 15:00～17:30

場 所:広島大学病院 臨床管理棟3階 大会議室

参加者:49名

「**地域で支える、看取りを見すえたがん患者とその介護者のケア**」 聖ヨハネ会桜町病院 在宅診療部長 大井 裕子 先生

岡山 市民公開講座「免疫療法とがん治療 ～適切な免疫療法とは～」

日 時:平成31年2月17日(日) 13:00～15:35

場 所:岡山コンベンションセンター3階 コンベンションホール

参加者:364名

講演1:「**がんと免疫療法 まず知っておきたいこと**」 岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科 講師 市原 英基
 講演2:「**メラノーマと免疫療法**」 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚科学 准教授 山崎 修
 講演3:「**肺がんと免疫療法**」 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学 助教 二宮 貴一郎
 講演4:「**消化器がんと免疫療法**」 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器・肝臓内科学 助教 神崎 洋光

香川 第24回 都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー 放射線治療に関する研修会

日 時:平31年2月21日(木) 18:00～19:00

場 所:香川大学医学部 臨床講義棟2階

参加者:39名

「**高齢者のがん治療を考える～放射線治療の役割～**」 香川大学医学部附属病院 放射線治療科 教授 柴田 徹

愛媛 第40回 愛媛大学医学部附属病院腫瘍センター講演会 (第9回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会)

日 時:平成31年2月21日(木) 17:30～19:00

場 所:愛媛大学医学部 第2ゼミナール室(総合教育棟2F)

参加者:20名

「**異次元の科学性を内包するがん放射線療法BNCT、その魅力を語る**」 大阪医科大学 関西BNCT共同医療センター長 小野 公二 先生

広島 第10回 広島がん薬物療法セミナー(基礎コース)

日 時:平成31年2月23日(土) 14:00～17:30

場 所:広島大学病院 たんぽぽ保育園2階 カンファレンス2

参加者:99名

特別講演:「**肺癌に対する薬物療法**」 広島大学病院 呼吸器内科 助教 益田 武 先生
 一般講演:「**非小細胞肺がん薬物療法における薬剤師の関わり～支持療法を中心に～**」
 公立学校共済組合中国中央病院 薬剤部 岡田 淳芳 先生

徳島 レディオミクス研究会

日 時:平成31年3月4日(月) 17:30～19:30

場 所:徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂2F 小ホール

参加者:54名

講演①:「**レディオミクスとは何か?イメージから未来予測**」
 九州大学大学院医学研究院 保健学部門医用量子線科学分野 教授 有村 秀孝 先生

講演②:「**模様を定量化する-テクスチャ解析の基礎の基礎-**」
 駒澤大学大学院医療健康科学研究科 診療放射線学専攻 講師 馬込 大貴 先生

講演③:「**レディオミクスによる医療ナビゲーション**」
 熊本大学大学院生命科学研究部 医用理工学分野 准教授 内山 良一 先生

講演④:「**“レディオミクス”が放射線治療にやってきた!～これまでの常識が変わる～**」
 東北大学大学院医学系研究科 放射線腫瘍学分野 助教 角谷 倫之 先生

講演⑤:「**数学からやってきた新しい特徴量-トポロジカルデータ解析の基礎の基礎-**」
 帝京大学大学院医療技術学研究科 診療放射線学専攻 教授 古徳 純一 先生

講演⑥:「**AIと数学的概念の融合による医療画像解析**」
 大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 特任研究員 中根 和昭 先生

徳島 臨床腫瘍・緩和地域医療学コース(インテンシブ)第4回 地域医療セミナー

テーマ:鳴門市と板野郡とのがん診療連携～患者さんの安心のために～

日 時:平成31年3月7日(木) 19:00～20:35

場 所:徳島県鳴門病院

参加者:84名

第1部:「**大きく変貌する肺がん薬物療法～免疫療法を中心に～**」 徳島大学病院 臨床試験管理センター 特任講師 軒原 浩
 「**免疫療法の内分泌副作用に対する診療連携**」 徳島大学病院 内分泌・代謝内科 医歯薬 講師 吉田 守美子
 「**がんゲノム医療について**」 徳島大学病院 消化器内科 講師 宮本 弘志

第2部:「**泌尿器癌に対するロボット支援手術**」 徳島大学病院 泌尿器科 教授 金山 博臣
 「**肺癌に対するロボット支援手術**」 徳島大学病院 胸部・内分泌・腫瘍外科 准教授 滝沢 宏光
 「**がんに関連した放射線科のIVR**」 徳島大学病院 放射線診断科 講師 岩本 誠司
 「**がんの地域連携 ～かかりつけ医との役割分担に関するアンケート調査**」 徳島大学病院 胸部・内分泌・腫瘍外科 助教 鳥羽 博明

香川 第25回 都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー 化学療法に関する研修会

日 時:平成31年3月8日(金) 18:00～19:00

場 所:香川大学医学部 臨床講義棟2階

参加者:27名

「**免疫チェックポイント阻害剤の使い方と副作用マネジメント**」 川崎医科大学 臨床腫瘍学 講師 谷岡 洋亮 先生

岡山 第6回 岡山患者－医師間のコミュニケーションの質の向上を目的としたコミュニケーション技術研修会

日 時:平成31年3月 9日(土) 10:00～18:00

平成31年3月10日(日) 8:00～14:30

場 所:岡山大学医歯薬融合型教育研究棟

参加者:12名

内 容:難治がん、再発、抗がん剤の中止など悪い知らせを患者に知らせるロールプレイ

松山 松山大学大学院医療薬学研究科 **がんプロ第4回 公開講座**

日 時:平成31年3月9日(土) 16:00～17:30
場 所:松山大学 樋又キャンパス2階 H2A講義室
参加者:77名

「**薬剤師だからこそできるきめ細やかながん支持療法**」 岡山大学病院 薬剤部 鍛治園 誠 先生

広島 **第2回 広島大学病院 緩和ケア研修会**

日 時:平成31年3月10日(日) 9:00～17:10
場 所:広島大学病院 臨床管理棟3階 3F1会議室
■e-learningの復習・質問
■ロールプレイングおよびグループ演習:がん緩和ケアにおけるコミュニケーション、ワークショップ
■グループ演習:アイスブレーキング
■グループ演習:症例検討 全人的苦痛に対する緩和ケア
■グループ演習:療養場所の選択と地域連携
■がん患者等への支援
■ふりかえりと修了式

岡山 **Global Oncology Seminar**

日 時:平成31年3月15日(金) 18:30～19:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟東棟5F 第6カンファレンスルーム
参加者:20名

「**Cancer Immunotherapy -from Basic to Clinical-**」
Basic Part / SEKI, Yoichi Oncology Medical Affairs, MSD K.K
Clinical Part / NOZAWA, Mamoru Oncology Medical Affairs, MSD K.K

徳島 **市民公開講座「これからのがん治療」**

日 時:平成31年3月16日(土) 13:00～15:30
場 所:徳島大学蔵本キャンパス内 長井記念ホール
参加者:255名

【第一部】
講演1:「**小児・AYA世代のがん医療の現状と課題**」 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 小児科学分野 准教授 渡辺 浩良 氏
講演2:「**高齢がん患者さんが安心して治療を受けるために**」 徳島大学病院 緩和ケアセンター 看護師長 三木 幸代 氏
【第二部】
講演3:「**最新の科学から学ぶがん予防のための食生活**」 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 臨床食管理学分野 教授 竹谷 豊 氏
講演4:「**がんゲノム医療について**」 徳島大学病院 消化器内科 講師 宮本 弘志 氏

川崎 **インテンシブ生涯教育コース 川崎医科大学附属病院がんセンター 第24回 Cancer Seminar合同講演会**

テーマ:がん治療－最近の話題－
日 時:平成31年3月16日(土) 13:30～16:00
場 所:川崎医科大学 校舎棟7階 M-702講義室
参加者:92人

講演1:「**ダヴィンチXiを用いたロボット支援下直腸手術**」 川崎医科大学 消化器外科学 准教授 鶴田 淳 先生
講演2:「**当院における緩和ケアとチーム医療**」 川崎医科大学附属病院 緩和ケアセンター がん看護専門看護師 山下 絹代 先生
特別講演:「**がん免疫療法の本質－客観的がん免疫療法－**」 昭和大学病院 腫瘍内科 教授 角田 卓也 先生

広島 **広島がん高精度放射線治療センター(HIPRAC)県民公開セミナー**

テーマ:発見しよう！自分に適した「がん治療」～放射線治療の役割も大きい～
日 時:平成31年3月17日(日) 12:45～17:00
場 所:広島県医師会ホール
参加者:313名
第1部:HIPRAC施設見学
第2部:がん治療に関する講演
「**広島県のがん対策(第3次計画)**」 広島県がん対策課 山口 浩央 課長
「**乳がん**」 広島大学病院 西淵 いくの 先生
「**前立腺がん**」 県立広島病院 和田崎 晃一 先生
「**肝臓がん**」 広島がん高精度放射線治療センター 土井 歆子 先生

徳島文理 **徳島文理大学中四がんプロコンソーシアム講演会**

日 時:平成31年3月19日(火) 19:00～20:30
場 所:サンポートホール高松5階 54会議室
参加者:37名
「**研究成果をエビデンスとして発信する～乳癌オランザピン研究～**」
慶應義塾大学薬学部 医療薬学・社会連携センター 医療薬学部門 専任講師 がん専門薬剤師・がん指導薬剤師 河添 仁

広島 **広島大学病院 がん医療従事者研修会**

日 時:平成31年3月22日(金) 18:30～
場 所:広島大学医学部 基礎講義棟 第1講義室
参加者:52名

「**これからの人生の話をしよう～Advance Care Planningは『話す』ということに尽きる～**」
福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー 准教授/白河厚生総合病院 総合診療科 部長 東 光久 先生

香川 **第26回 都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー がんゲノム医療に関する研修会**

日 時:平成31年3月25日(月) 18:00～19:00
場 所:香川大学医学部 臨床講義棟1階
参加者:41名
「**遺伝性大腸癌に学ぶゲノム医療－基礎と臨床の架け橋**」 香川大学医学部附属病院 消化器外科 講師 隈元 謙介 先生

岡山 **第42回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー**

日 時:平成31年3月28日(木) 18:00～19:30
場 所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室
参加者:10名
「**Adaptive Radiotherapyの概念と臨床応用について**」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

愛媛 **第41回 愛媛大学医学部附属病院腫瘍センター講演会 (第1回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会)**

日 時:平成31年4月12日(金) 17:30～19:00
場 所:愛媛大学医学部 第2ゼミナール室
参加者:29名
「**がんゲノム医療推進に向けた厚生労働省の取組み**」 厚生労働省大臣官房 厚生科学課 課長補佐 深田 一平 先生

山口 第1回 がん治療スキルアップセミナー

テーマ:認知行動療法

日時:平成31年4月17日(水) 17:30～19:00

場所:山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階 多目的室1

参加者:34名

講演Ⅰ:「うつと不安に対する診断横断的治療のための統一プロトコル」

山口大学医学部附属病院 精神科神経科 臨床心理士 藤井 優子 先生

講演Ⅱ:「疼痛の認知行動療法」 山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 臨床心理士 佐藤 裕子 先生

講演Ⅲ:「不安症(社交不安症・パニック症・強迫症)の認知行動療法」

山口大学大学院医学系研究科 高次脳機能病態学講座 准教授 松原 敏郎 先生

岡山 第1回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成31年4月18日(木) 16:30～18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術1(物性)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第2回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成31年4月22日(月) 18:00～19:30

場所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室

参加者:5名

「極小照射野における光子線線量特性」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第3回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成31年4月25日(木) 16:30～18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術2(原子核物理)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第4回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和元年5月9日(木) 16:30～18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術3(放射線の特性)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術4(臨床放射線発生装置)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第5回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和元年5月16日(木) 16:30～18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術5(電離放射線の相互作用)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第6回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和元年5月23日(木) 16:30～18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術6(電離放射線の計測)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第7回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和元年5月27日(月) 18:00～19:30

場所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室

参加者:6名

「極小照射野における線量評価法」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第8回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和元年6月6日(木) 16:30～18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術7(X線の線質)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

岡山 第9回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和元年6月13日(木) 16:30～18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:5名

「放射線治療品質管理基礎技術8A(吸収線量の計測)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

徳島 日本放射線技術学会 中国・四国支部 支部セミナー

テーマ:放射線医療に関するAI(人工知能)技術

日時:令和元年6月15日(土) 13:00～18:00

場所:徳島大学蔵本キャンパス 徳島大学病院 日垂ホールWhite

参加者:33名

講演1:「画像診断とAI:基礎から最新トピックまで」 東京慈恵会医科大学 中田 典生 先生

講演2:「AI技術の実装における医療業界動向」 千代田テクノル 四方田 章裕 先生

講演3:「レディオミクス概論:特徴量抽出と深層学習」 徳島大学大学院 芳賀 昭弘 先生

講演4:「ニューラルネットワークによる回帰の基礎と
拡散MRI信号値モデルのパラメタ推定への応用」 広島市立大学大学院 増谷 佳孝 先生

岡山 第10回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:令和元年6月20日(木) 16:30～18:00

場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム

参加者:6名

「放射線治療品質管理基礎技術8B(吸収線量の計測)」 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 笈田 将皇

徳島 PHITS講習会

日時:令和元年6月22日(土) 9:30～17:30

令和元年6月23日(日) 9:00～15:00

場所:徳島大学蔵本キャンパス 医学部基礎B棟1階 基礎第1講義室

参加者:12名

6月22日(土)

■PHITSのインストール

■PHITSの概要説明

■基礎実習1-1(体系の作成方法)

■基礎実習1-2(線源の設定方法)

■基礎実習2(タリーの設定方法)

■演習問題(基礎実習1,2の宿題)

6月23日(日)

■基礎実習3-1(輸送計算に関する設定)

■基礎実習3-2(物理モデルの設定)

■医療応用実習(診断X線での後方散乱の影響の解析)

■まとめと質疑応答